



第1地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 新保 清久（新潟万代 RC）

第1地域ロータリー財団コーディネーター補佐の新保清久（第2560地区・新潟万代RC）です。新井和雄RRFCの補佐として職務を務めて半年過ぎましたが、地域リーダー会議やロータリー財団の委員長会議、ロータリー研究会、ロータリー財団地域セミナー等に参加して最新の情報を学んでまいりました。あらためてロータリーの発展には、ロータリー財団の拡充が欠かせないことを確認しました。

さて、年度初めに寄付金について新井RRFCから会員に寄付の目標達成のお願いをするよりも、まずはロータリー財団のインパクトを伝えるように指示がありました。地区補助金やグローバル補助金を活用して地域や世界で実施するロータリーの奉仕活動は、寄付してくれた「あなたのおかげです」と会員にサンキューレターなどで感謝の意を表す活動を地区、クラブで広めるようにと指示を受けました。

近々に担当する4地区のロータリー財団委員長さんと会議を開催して、各地区のロータリー財団セミナーなどで寄付者にもっと感謝が伝わる取り組みと寄付金ゼロクラブゼロや寄付状況の確認等々情報交換をしたいと思います。併せて2013年度から始まりました世界のポール・ハリス・ソサエティ（以下PHS）の会員数は、会員全体の約2%にもかかわらず、年次寄付の22%、恒久基金を含めた財団寄付全体の20%を占めていることからPHS会員の拡大に注力することやまた恒久基金の前年度の運用益が12%であり死んだ後でも財政的に社会貢献できる恒久基金への寄付を促すこと、DDF（地区財団活動資金）の繰越金は、地区の恒久基金として設立可能であること等も周知していきたいと思います。

小生は、今から30数年前にロータリークラブに入会した際に先輩からロータリー財団は、毎年100ドルを寄付すればよいと教えられたくらいの理解でしたが、図らずもガバナーになり、その後、地区ロータリー財団委員長に就任しまして、各クラブにもっと分かりやすく、身近なロータリー財団を目指して、委員会の人事や地区補助金の支給基準を見直しました。その効果は、地区補助金の申請件数が一挙に3倍になり、現在も約70%以上のクラブが地区補助金やグローバル補助金を申請して奉仕活動に活用しています。

また前年度に第2560地区では、地区補助金の申請・報告を電子システム化して申請フォーマットに記載することで補助金委員会はじめ関係部署の負担を減らすことができました。情報の共有化と入力ミス、添付漏れの自動チェックにより経験のない会員でも正確に申請書・報告書の作成が可能となり作業時間が削減されて大いに効果を発揮しています。最後になりますが、時代に追いつき適応しようとしているロータリーを支えるロータリー財団の理解者、協力者をもっと増やすために様々な仕方があると思いますので関係各位のご教授をいただき任務を務めて参りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。





笑いあり、涙あり「3つの手法」を熱演

第2地域 ロータリー会員増強コーディネーター補佐 橋口 明（神奈川 RC）

第2地域では、若林 英博 RMC が提唱された「3つの手法(戦略的オープン例会・衛星クラブの設立・クラブ独自の会員種)」の実践を強力に推し進めております。

1. 戦略的オープン例会(ロータリーの友 2025年8月号P10,11 参照):会員増強は総論だけでは机上の空論に過ぎず、緻密に計画しクラブ一丸となって取り組むという泥臭さこそ重要であります。戦略的オープン例会は、会員増強の面が強調されがちではありますが、実は会員維持の側面が強いものです。ゲスト(会員候補者)の情報を事前に共有し、会員全員が役割分担をしてゲストを温かく迎えるためには、クラブ全員で取り組まなければならず、それにより結束力が高まり、大いに盛り上がり、活性化に繋がることになります。



2. 衛星クラブの設立:柔軟で参加しやすく自主的に運営ができることが、最大の魅力です。「元会員」、「会社の仲間」、「趣味の仲間」、「同窓生」、「地域の仲間」、「奉仕活動の仲間」など、さまざまなつながりから創ることができ、衛星クラブは、無限の可能性を秘めています。

3. クラブ独自の会員種別:心の底からロータリーが大好きな方に、手を差し伸べる仕組みです。「シニア」、「家族」、「Web」、「法人」、「準会員」、「ユース」など。常日頃より会員のことを第一に考えていれば、自然とアイデアが湧いてくるはずです。

皆様のご記憶に新しいことと思いますが、昨年11月19日、20日に横浜で開催されました【第54回ロータリー研究会】の第1セッション「もっと元気なクラブになろう—増減カーブを前年より上向きに」では、3つの手法を体現する寸劇をご披露しました。企画立案、シナリオ、キャスティング、演技指導等々、総監督である若林 RMC の思いが込められた名作がありました。迫真の演技をご披露くださいました俳優陣の皆様には、心より御礼申し上げます。

(写真左:白鳥敬日瑚 ARMC 写真右:黒川伸一 ARMC)



また、第3セッションの「退会防止とクラブの持続的成長」では、2024-27年度 RI 会員増強委員会の岩澤あゆみ委員 (RID2780 茅ヶ崎 RC) にご講演いただきました。

【ロータリーの未来は「居場所づくり」から始まる】

Connection Purpose Growth
心がつながるクラブは、会員が育ち、人が集まり、未来へと続く。

行動しなければ、何も変わりません。
まずは、やってみましょう！



謹賀新年

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 谷 宗光(和泉RC)

親愛なるロータリー会員のみなさま。

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

私たちロータリー会員は、2026年も四つのテストに照らし、

・真実かどうか・みんなに公平か・好意と友情を深めるか・みんなのためになるかどうかを
心にたずさえて、地域社会や世界のさまざまな問題解決のために、人道的奉仕活動を行い、
高い倫理基準の措置と、人間形成のために日々精進して参りましょう。



さて、私たちロータリー公共イメージコーディネーターチームでは、昨年も10月の「世界ポリオデー」を前面にPRし、同時にロータリーの知名度向上のために、日本経済新聞(10月18日)に一面広告を掲載させて頂きました。

それと時を同じくして全国の各クラブ・各地区で、開催して頂いております、様々なイベント活動の記録にあたる「ポリオ根絶フォトコンテスト」の募集もさせて頂きました。ロータリーは長年にわたりポリオ(小児まひ)の根絶に対し支援して来ており、ワクチン提供や啓発活動を続けています。その活動の一コマの写真は、どの作品も、「見る人に感動を与え、ポリオ根絶への願いを伝える一枚」とっていました。その選考は、単なる集合写真ではなく「想い」「ストーリー性」「メッセージ性」を重視させて頂きました。

そして応募総数194件がエントリーされ、地域リーダーの皆様の厳正なる投票で、194件から8件を入選作とさせて頂き、その8件の中からRI会長賞、RI理事賞等の各賞を決定させて頂きました。

・RI会長賞 2790地区 富里RC

・TRF管理委員長賞 2820地区 水戸RC

・RI理事賞-1 2690地区 松江南RC 理事名:スザン・ステンバーグ

・RI理事賞-2 2500地区 釧路北RC 理事名:サルバドール・リツツオ・ダバレス

・水野 RI理事賞 2720地区 熊本中央RC

・辰野 TRF管理委員賞 2790地区 千葉西RC

・四宮 RI理事エレクト賞 2790地区 千葉RC

・中谷 RI理事エレクト賞 2820地区 北茨城RC

応募いただきました皆様本当にありがとうございました。

今年も引き続き、この事業は行われる予定だと伺っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。